

<b>Title</b>	2013 年 牧会サマーセミナー報告
<b>Author(s)</b>	村上, 純子
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.23-No.2, 2013.12 : 25-25
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=5044">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=5044</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

## 2013 年 牧会サマーセミナー報告

2013年9月9日（月）、牧会サマーセミナーが開催された。これは毎年、対象者を牧会者（牧師、伝道師など）に限定して行われているもので、牧会者が牧会上の課題を共有し、励まし合うことを目的に持たれているセミナーである。今回は例年よりも多くの参加者があり、今回のテーマ「牧会における家族の問題」への関心の高さをうかがわせる会となった。

午前中は、簡単な自己紹介から始まった。参加者の自己紹介をお聞きしているだけでも、実にバラエティに富んでいて、今日一日どのような学びになるのか、興味がそそられる。このセミナーは、教派教団を超えて他の牧会者と出会えるチャンスでもあるのだ。

続いて4人の発表者からの話題提供があった。平山正実先生（聖学院大学大学院教授）は、「家族」というものを聖書から読み解かれ、深い神学的な洞察にまで話が及んだ。堀肇先生（聖学院大学大学院非常勤講師）は、家族療法の基礎的な考え方に触れられ、家族を個人の集まりとしてだけではなく、家族それ自体を一つのものとしてとらえ、理解していくことの大切を説かれた。藤掛明先生（聖学院大学人間福祉学科こども心理学科准教授）は、家族を考える上で、親子関係だけでなく兄弟関係も重要な要素であることを話された。筆者は、自らが牧師の家庭に育ったものとしての経験を含め、牧師の家庭の諸問題に問題提起を行った。同じ「家族」というテーマを取り扱いながらも、それぞれに切り口が違っており、参加者にとっては興味深い話題提供だったのではないと思う。

お昼に配られるお弁当も、楽しみの一つである。参加者は周りの方々と談笑しながら、お昼のひと時を過ごしておられた。

午後は5、6人程度の小グループに分かれ、グループごとにディスカッションを行った。このグループ・ディスカッションは、毎年、参加者の間で大変好評である。同じ牧会に携わる者として、普段はなかなか話せない教会の課題や対応に苦慮

する事柄といったことを、忌憚なく話せる場である。もちろんそこで話されたことは秘密厳守であるし、誰かの発言を批判したり、否定したりする者もない。個々の状況は違うが、牧会者として、皆が同じような痛みを感じてきており、苦しみを分かち合うことができる。そしてお互いから学び合うことも多い。

今回は「家族」というテーマで行われたということもあり、牧師が自らの家庭の痛みを分かち合うことができたように思う。どのグループも時間が足りなくなるくらい、非常に活発に分かち合いがなされていた。

再びセミナールームに集合し、各自が今日学んだことや感じたことなどを振り返るひとときと質疑応答の時間も持たれた。朝の9時半から午後16時までであったという間の一日であった。



（文責：村上純子[むらかみ・じゅんこ] 聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）